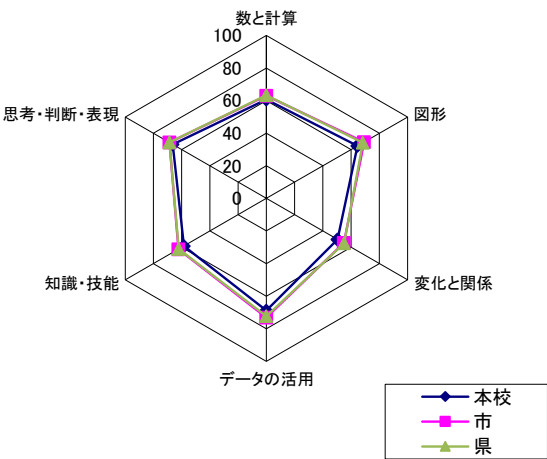


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.7	63.0	63.3
	図形	64.5	69.2	68.3
	変化と関係	50.4	54.8	55.0
	データの活用	68.8	73.1	72.3
観点	知識・技能	58.4	62.3	62.1
	思考・判断・表現	66.4	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ○23億が23万の何倍かを答える問題の正答率は44.3%で、県の正答率を8.3ポイント上回った。 ●(2けた)÷(2けた)の計算をする問題の正答率は52.9%で、県の正答率を12ポイント下回った。 ●(整数)－(1より小さい小数)の計算をする問題の正答率は71.1%で、県の正答率を5.7ポイント下回った。 ●式の意味を表したものとして正しい文章を選ぶ問題の正答率は70.3%で、県の正答率を4.3ポイント下回った。	・小数の学習では、10倍・100倍…したときに、小数点がどのように移り変わっていくのかを、関連する学習の中で繰り返し復習することで定着を図る。 ・加減乗除の計算の方法について、きちんと理解できるように、朝の学習の時間や授業中に、基礎的な部分を繰り返し復習する機会を設ける。 ・式の意味について考える問題では、式の表す意味を考える機会を授業の中で多く作ることで、習熟を図る。
図形	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ○ものの位置の表し方から、もとにする位置を選ぶ問題の正答率は69.4%で、県の正答率を6.9ポイント上回った。 ●立方体と直方体の違いを選ぶ問題の正答率は81.8%で、県の正答率を4.1ポイント下回った。 ●三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める問題の正答率は44.6%で、県の正答率を9.3ポイント下回った。	・立体の学習では、関連する授業の中で立体の構成要素について復習することで、それぞれの立体の違いが理解できるように繰り返し指導していく。 ・図形の学習では、三角定規のそれぞれの角の大きさの復習をするとともに、三角形や四角形の角度を求める問題に取り組む場を多く設け、角度を計算で求める力が身に付くように繰り返し指導していく。
変化と関係	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ○伴って変わる2つの数量の関係から年齢を答える問題の正答率は77.7%で、県の正答率を3.3ポイント上回った。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題の正答率は38.0%で、県の正答率を12.8ポイント下回った。また、この問題の無回答率は14.1%であった。	・伴って変わる2つの数量から、もう一方の値を求める問題では、様々な問題場面を取り上げ、数の変化を表にまとめていくことを通して、2つの数の変わり方に気付けるように指導をしていく。また、それを自分の言葉や式で説明する場面を授業の中に設定し、自分の考えを表現できるようにする。
データの活用	平均正答率は、県の平均と比べ低い。 ●折れ線グラフの傾きから変わり方を読み取る問題の正答率は65.3%で、県の正答率を6ポイント下回った。 ●二次元の表の空欄がどのような人数を表しているかを説明する問題の正答率は73.6%で、県の正答率を2.8ポイント下回った。また、この問題の無回答率は14.9%であった。	・折れ線グラフの学習では、数値を読み取るだけでなく、数値の変化から分かることを読み取る活動を多く取り入れることで定着を図る。また、算数の授業だけでなく、様々な教科でグラフの読み取りの活動を取り入れることで、グラフを活用する力が身に付くようにする。 ・二次元の表の学習では、表の読み取りだけでなく、データを表にまとめることも練習することで定着を図る。